

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900078		
法人名	社会福祉法人 生き活き館		
事業所名	グループホーム ケアポート生き活き館 巨瀬		
所在地	岡山県高梁市巨瀬町5540-1		
自己評価作成日	平成30年3月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元からのバックアップを頂き、隣接地の畑での畑作業や、地域行事への参加等を実施。体調管理には特に気を配っており、日々のバイタルサインから、食量、排泄量、飲水量等も把握し、体調不良になる前での対応に心がけている。医療との連携を密に行い、利用者の受け入れ前から、受け入れた後、当事業所で落ち着いて生活できるように相談段階から、援助を行っている。また地域との連携を密に行い、地域の店舗への外食、公共施設への外出、地域の商店に来てもらい買い物行事をする等の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山県北部の中山間地域に位置し、過疎化が非常に進んだ立地にある施設です。地域との連携にもこの地域ならではの対策、対応が実践されていきました。災害時のライフラインが寸断された時には地域の方々の個人の井戸水や暖房器具を活用させてもらえる様話し合いがなされ又、災害時に地域の避難場所として提供するなど、地域の一員としての重要な役割を担っている事業所です。開設7年が過ぎ、管理者・職員も落ち着いた対応が実践され、穏やかな日常生活が窺える事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者ひとりひとりに合わせていけるような温もりと優しさをモットーに「心の通う人づくり」と言う事業者独自の理念を作りあげています。	住み慣れる住居にするために入居者一人ひとりの気持ち、家族、地域とのつながりを大切にしながら理念である(心の通う人づくり)を共有し実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事毎の地域、また近隣小学校への声掛けと事業所への訪問、学生の実習の受け入れ、地域のボランティアの方の行事への参加、地域行事・地域清掃への職員、利用者の参加等を行っております。	地域とのつながりを大切にしていける観点から、避難訓練に参加したり、市民センターに出かけたり多くの職員が地域に出かけられるように努めています。	多くの職員が、もっと地域に出て行ける様、これからも継続して取り組んでいかれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度に引き続き認知症サポーターへの新たな職員の登録。また、昨年度に引き続き高梁市認知症カフェ運営事業へ参加し、月に2回、巨瀬地域市民センターにて認知症カフェを継続して実施しております。また管理者は、高梁市にて認知症施策検討委員として、地域の認知症施策の推進にも微力ながらも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、御家族様、地域の方、行政の方よりのご意見を頂き、朝礼や職員会議等で職員にも周知徹底を行い、改善に努めています。	毎回市の職員の参加があり、情報交換がなされています。運営推進会議で提案された議題については、前向きに取り組んでいる様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問事項等は担当課の方にさせて頂いています。内部でわからないことがあれば、管理者やケアマネージャーより質問させて頂いています。また、運営推進会議に高梁市の担当者様が毎回参加下さっているので、そこも情報交換の場となっています。	市との関係は良好で、随時連絡を取りながら事業所の実情を伝え、よりよい協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関、通用口等、外部への通路につきましては、施錠をさせて頂いております。館内は自由に移動が出来るようになっております。	わかりやすいマニュアルが作成されています。必要時には参考にし、身体拘束をしないケアの実践に努め又、職員会議でも常に取り上げ反映に努めています。	身体拘束の概念も常に変化しているので、現状に即した対応が出来る様これから継続して取り組んでいかれる事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設けております。年間の内部研修計画にも高齢者虐待についての研修を予定しており、実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に管理者が外部研修を受講し、その後、職員に周知等を職員会議等にて実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、また必要時に随時実施しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議がその機会かと思っております。また計画作成時や来館時にも意見をお聞きする様に心がけております。	日々の生活の中から意見が聞ける様努め、又ケアマネージャーを中心にこまめに連絡を取り、意見・要望の収集に努めています。家族とは顔を合わせ直接話が聞ける関係づくりに努めています。	意見、要望を引き出すのは、なかなか大変ですが引き続き誠意が伝わるようこれからも取り組んでいかれる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議、ミーティングにて意見を出し合っています。また個人面談も実施しており、意見の吸い上げを心がけております。	管理者は職員から多くの意見を出してもらえるように、職員のレベルに合わせた意見を集約し愚痴を意見として出せる様努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間3回、職員の評価を行い、職員の実績を確認しております。その際に、給与・賞与等の条件を検討しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施。また外部からの研修の案内についても職員に声掛けしたり、施設に関係する外部研修については、研修費の補助等も行い参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域での集まりがあり、参加しております。他職種でも、声掛けあれば職員へ通知し参加・不参加を確認しております。病院や市が開催する研修会、協議会等への参加も、各職員から募り参加を促しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の状況把握は3回以上、計画作成担当者、担当予定者等で実施。利用前よりの利用者様、御家族様との信頼関係構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービスの対象者であるか、また他に適切なサービスがないか等も勘案して相談援助を行っております。また、サービス実施後も介護度や状態を考慮し、他サービスへの移行のメリット・デメリット等、説明を実施しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂く様にしています。残存機能を十分活かしたサービス提供に向けて引き続き努力をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要物品を御家族に持参頂く等、足を運んで頂く機会を何かしら工夫しながら、家族との縁が切れない様、また負担になり過ぎない様に勘案しながら援助しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報もあり、施設から積極的には行っておりません。外部から、連絡等あれば、御家族等へ確認をとり、面会等は行って頂いております。外への援助は原則家族対応でお願いしております。	馴染みの関係を大切にしながらも、新たに事業所内での新しい環境にも目を向け住み替えても安心がもてる関係作りと支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が日々気持ちよく暮らせる様に、利用者同士の関係性には気を配り、ユニットでの席や関わり、またユニットだけにこだわらず、施設内での交流等にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所から他事業所への移動、またサービス自体の終了のケースについて等、地域包括支援センターや巨瀬地域担当の在宅介護支援センターへの情報提供を行っている。そして今後の他事業所からのサービス提供や、また困った事が起こった際には地域の介護施設として、引き続き相談を受ける体制である旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子、本人からの意見、家族からの聞き取りを参考に、朝礼やミーティング、担当者会議にて話し合い、意向の把握に努めております。	日々の関わりのなかで、希望・意向を把握して、できることとできないことを分別し、できるだけサポートしながら本人本位の暮らしが出来る様努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント(初期に3回実施)にて把握に努めております。また利用開始後に話して頂けた内容についても職員同士で周知徹底を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察、モニタリングの実施、また担当者会議の実施にて把握努力しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、施設内各専門職の意見を集め、計画作成を行っております。	チームケアを図るためにも、職員間の連携に努め、職員が個々で判断せず、意見交換・情報共有し、よりよい介護計画の作成にチームで取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残しては行っておりません。重要な内容については職員間の情報共有を行っております。しかし細かい気づき工夫等の情報共有がまだまだ十分でない現状は、引き続き課題のままであると考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応はケースによるので文書での記載はできませんが、柔軟に対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や地域市民センター等での行事への参加や、見学等について等、実施しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にかかりつけ医については良くご相談させて頂いております。また、入居後の医療機関との連携は、ご家族に確認を取りながら、積極的な支援に取り組んでおります。	かかりつけ医・歯科医・認知症専門医との連携もしっかり取りながら適切な受診支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置しており、適切に支援しております。また、看護師が窓口となり主治医との連携に務めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より各病院のMSW等とはPRでの訪問も有り、連携は密に行っております。入院等の際には状況把握をこちらから積極的に行い、情報収集をし、早期での退院受け入れが可能な際は、お伝えしていく様にしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内でできる範囲について説明し、取り組んでおります。	看取りの対応に取り組んでおり実践しています。終末期の対応も常に心掛け、家族と相談しながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時におけるAEDの使用訓練、また心肺蘇生法の研修を実施しております。平成26年度には心肺蘇生練習用のキットも購入し、各職員が緊急時に備えております。また、平成27年度にはAEDを購入した物からリースに変更。平成29年度は職員を心肺蘇生の外部研修の参加させ、研修内容を全職員に対して事業所で内部研修を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の防災訓練や、巨瀬地域で毎年2月9日に実施される地域での防災訓練にも職員が参加し、施設内、地域での防災に備えております。また、高梁市の指導により平成28年12月には水害想定での避難訓練も実施しております。	地域住民参加の防災訓練を実施しています。ライフラインが寸断された時には地域の資源(井戸水 暖房)を活用させて頂けるよう連携が取れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通じて、利用者への対応・言葉かけには気をつけております。介護保険でのサービス上、自立支援を心掛けている中で、利用者の意に沿わない声かけもあるようですが、良く職員間で話し合いながら声かけ・かかわりを検討しております。	全職員が意識し、一人ひとりに合った支援を提供しています。また、職員からは守秘義務の同意書もとり、プライバシーの確保に努めている様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まだまだ不十分だと思いますが、好きなことなど希望に添えるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の外出希望等には、その時の職員の動きにもよりますが、できるだけ対応するようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思や生活歴を尊重しつつ、援助を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在参加できる人数は少なくなりましたが、一緒に配膳準備・片付けして頂いています。普段の食事中の意見も栄養士にあげていくようにしています。また食事作りや、おやつ作り等、利用者様と職員で行うようにしており、利用者様よりのご意見を尊重し、メニューの決定を行っております。また年数回は外食を行って、行先は利用者様からのご意見も基に決定しております。	一人ひとりの嚥下状態に合わせた食事の提供と外食や手作りのおやつなど、柔軟な対応で楽しい食事が出来るよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量、また月毎の体重の増減等を記録し、状態の観察、栄養士・医師との連携に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	内部研修・外部研修を通じて理解を深め、実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレでの排泄を心がけ、利用者、ご家族からのポータブルトイレの使用の要望もありますがトイレでの排泄の大切さを説明し自立にむけた支援を行っております。歩行困難な利用者様におかれましては、夜間、危険が想定される場合等、時間を限定して使用してもらう等していただいています。	自立された方、又リハビリパンツを使用している方など様々で、日中と夜間での排泄支援など個々のレベルに合わせた排泄の対応で無理のない自立の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物・水分量に注意し、医師の意見も聞き、連携して予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日で決まっていますが、体調、または気分による訴えも取り入れて、変更等は利用者様に合わせて随時行っております。	本人の希望を第一に考慮し、体調不良だけでなく、精神的な拒否がある場合などにも配慮した入浴支援が実践されています。安定につながる入浴を常に心掛けた支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳のコーナーや談話スペースを設け、休息できるように取り組んでおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状況変化は看護師を通じ、医師また薬剤師に情報提供し連携しながら支援に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業をする方、貼り絵が好きな方、おられますが、同じ日に色々とは出来ませんが、日を変えたり、季節にてレクリエーション、作業等を考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、通院、行事などで外出を支援しております。個別にはご家族が対応して外出されています。また不定期行事として在宅への一時帰宅や墓参り等の援助を行っております。	本人の希望に沿いながら家族の協力も得て外食、地域行事への参加など、外出支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平成26年度よりグループホーム利用者様には、ご家族様より本人持ちのお金を用意して頂き、月に一度、地域の商店様に出張して頂き、買い物をして頂けるようになりました。今後も更に利用者様、御家族様の希望を確認し、発展していきたいと思っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は回数や頻度は家族と御話して、使用いただいております。手紙については、普段の希望はあまりないのですが、出された方もおられます。年賀状については多くの利用者様がご家族等にお出しになりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアには畳のコーナーがあり、テーブルの配置を工夫し、リラックスできるように配慮し、温度・湿度の管理も行っております。	共有スペースが程よい広さで、居心地の良いスペースで入所者がのんびりと過ごせるように又、身近に季節が感じられる環境にあり、思い思いに過ごせる空間づくりが窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机を分けたり、廊下に談話スペースを配置したり、畳スペースやソファを活用したりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物・家具の持ち込みは基本的には自由なので、使い慣れた家具等の持ち込み、また家で使っていた茶碗、箸、湯飲み等をお持ちいただき使用して頂いております。	シンプルな居室で限られたスペースを最大限に活かし、安定した生活が営めるように工夫され、衛生管理にも十分な配慮が窺え特に掃除が行き届いた居室でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にとっては、厳しく感じる所もあるかと思いますが、自分で出来る事、わかる事はして頂く様に職員が声掛けをしております。 本人のADLや、居室での危険行為の予防や予測をして、ベッドの向きや家具の配置等に配慮している。		